

No	団体名	Q1. スポーツ医・科学関連会議・組織の設置の有無											Q2. 団体におけるスポーツ医・科学サポート活動内容											Q3. 団体における安全対策・外傷・障害予防の取り組み
		名称	医師	トレーナー	歯科医	スポーツ科学	栄養	心理	その他	その他の内容	1) 競技会医事サポート	2) ナショナルレベル競技会などへのメディカルスタッフ派遣	3) ナショナルチーム強化に関する医・科学サポート	4) コレオス世代チームの競技会などへのメディカルスタッフ派遣	5) ドーピング検査サポート	6) ドーピング防止に関する活動	7) スポーツ医・科学に関する啓発活動	8) 外傷・障害予防などに関する調査・研究	9) 有望競技選手の talent 発掘・育成への関与	10) その他				
31	日本ラグビーフットボール協会	メディカル委員会	8	3																			脳震盪をターゲットに首直前部外傷の軽減を目指している。現場での脳震盪／脳震盪の疑いの判断の明確化、競技・練習参加期間の明示、競技復帰プロトコルの明示を行い、報告書提出の徹底を図っている。	
32	日本山岳協会	医科学委員会	16	3		3			1														ジュニア世代では骨の成長を考慮して指導する必要がある。	
33	日本カヌー連盟	理事・医科学委員会、アンチドーピング委員会	7	2		1			3	薬剤師													学生大会における長距離競技時ライフジャケット装着義務付け、選手大会・喘息等レースにて症状化するような疾患の届出義務付け	
34	全日本アーチェリー連盟	医事委員会(医科学研究部会・アンチドーピング部会)	2							6	薬剤師1、専門委員5												夏季屋外での大会では、熱中症対策に特に配慮している。	
35	全日本空手道連盟	医科学・安全管理委員会	18	2	1	0	0	0	0	0														
36	日本アイスホッケー連盟	リンクドクター、安全管理に関する委員の整備																					脳震盪に関する取り組み、施設安全管理基準の策定をすすめており、近日中に公表の予定。	
37	全日本剣道連盟	ドーピング防止委員会	2						1														防具の安全性に関する検討を行っている。	
38	日本クレール射撃協会	医科学アンチドーピング委員会								1													今後、スポーツドクターとして登録されている14名の方にも医療の観点から協力依頼を予定している。	
39	全日本なぎなた連盟	医科学委員会																						
40	全日本ボウリング協会	医科学委員会	4						1	日本アンチドーピング機構 DCO														
41	日本ボクシング連盟	競技力向上医科学部会	3	5	0	0	0	0	0														下部組織である都道府県連盟で体験スクールはじめ各種イベントを実施している。	
42	日本野球連盟	医科学委員会	1	0	0	0	0	0	2	総務担当理事1名、事務局員1名													ナショナルチームのサポートは、全日本アマチュア野球連盟の医科学部会が担当している。	
43	日本綱引連盟	医科学委員会																					現状では特ありません。	
44	少林寺拳法連盟	医科学委員会																					頭部外傷についての調査・研究を行い、練習や大会における安全性確保について周知し、事故防止に向けて呼びかけを行っている。	
45	日本ゲートボール連合																							
46	日本武術太極拳連盟																							
47	日本ゴルフ協会	医科学委員会	2	2					4	薬剤師、公務員													競技の性質上、外傷の発生はほとんどありません。膝、踵の障害が特々と考えられます。	
49	日本パワーリフティング協会																							
50	日本オリエンテーリング協会																							
51	日本グラウンドゴルフ協会																						会員に本スポーツドクターのアドバイスにより「緊急連絡先、血液型、既往症、常備薬、アレルギー、かかりつけの医療機関」について記載する会員証を配布し実際に効果を得ている。また、普及指導員養成講習会にてスポーツドクターによる「安全対策」について研修を実施している。	
52	日本トランポリン協会																							
53	日本トライアスロン連合	メディカル委員会、アンチドーピング委員会、情報戦略・医科学委員会	8	3	0	8	0	0	2	情報収集、ジュニア指導													これまでも個別に実施してきた安全対策に関して、現場の意見を集約し(2011年にメディカル委員会と大会審判役員が合同で「メディカルミーティング」を2回実施し、2012年には大会連盟サポートセンターを開設した。この中で出た意見をもとに、過去に作成された医療管理指針の改訂を2013年に向けて行っている。競技中の外傷・障害に対しては、特に水泳中の事故や熱中症などの重症事例について検証を行い、安全管理・安全教育両面からの取り組みを行っている。	
54	日本バウンドテニス協会																							
55	日本エアロビクス連盟																							
56	日本バイアスロン連盟	日本バイアスロン連盟	2																				冬期、夏期のトレーニング条件が異なるためそれぞれに対する対策が必要となると考える。 夏期はローラースキーによる競技となり、転倒による事故に対し、頭部ヘルメット、カヌーの着用、四肢のプロテクターなどの着用を義務付けるルール作りも必要。しかし、これ以外にも競技が必要となる。また、熱中症予防の水分補給を競技中はいかに行き、競技場内に日除けのテントを用意することなどもしているが、その場の判断で対処している。 冬期は寒冷障害予防、脱水などの予防策をルールから考えていく必要を感じている。 また、安全教育や現場でのサポートに関してはマンパワーの不足が大きな課題であり、海外遠征、合宿などの帯同も大きな問題である。特にドーピングに関連して遠征時などの持参品の管理、与薬などに関して非常に危ういものを感じて入るが現場問題は現状の認識にさらざるを得ない状況である 今後の課題は安全対策についての危機管理マニュアル作り・遠征時、特に海外転戦時の体調管理と作業問題について	
57	日本スポーツチャンバラ協会																						さほど選手同士の接触が発生する余地が少なく、外傷が少ない競技であるが、まれに手指の接触などが生じるため、選手に指手の保護などを呼びかけている。また、大会運動の重要性については、講習会・大会のために、告知啓発を行っている。	
58	日本アマカントポール協会																							
59	日本ローラースケート連盟																						常に足首にストレッチャーを巻きつけている選手層で、中には、足首を形成している骨の突出などがみられる場合がある。	
60	日本ダンススポーツ連盟	ダンススポーツ医科学研究部	0	0	1	1	0	0	1	薬剤師													ダンススポーツでは、腫らした障害をもたらすことが多い。特に、足指には外反母趾になるケースが多いため、足と靴の関係について調査を進めている。	
61	日本テニシング協会																						ルールブックに記載。安全技術講習会をお開催。	
62	日本障害者スポーツ協会	日本障害者スポーツ協会 医学委員会、科学委員会	18	8	0	11	7	12	26	動作解析													本会医学委員会により、国際大会への派遣の際に選手・役員に対して「ケア」を実施し、安全に競技を実施するための健康管理および指導を行っている。また、選手は障害があるため、日常的な服薬があるため、アンチドーピングに関する教育も重要としている。しかし、日常的な競技体への障害、競技特性に合った薬量にきめ細かく対応するため、医・科・研・研が各団体に備わっている環境整備の構築が現在の課題である。	